

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目)

事業所番号	0670700418		
法人名	社会福祉法人 山形虹の会		
事業所名	グループホームかけはし		
所在地	鶴岡市民田字代家田100-1		
自己評価作成日	令和 1年 9月 24日	開設年月日	平成 12年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事や役割活動を通し、他者と協力しながら生活を支援している。安心して生活が送られるよう、本人・家族の思いや希望を反映できるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オールインワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 3年 11月 5日	評価結果決定日	令和3年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「かけはしの理念」を踏まえ、利用者が「主体的で生き生きとした生活ができるよう」に支援している。特に、アセスメントにおいて、「出来ることを活かして」「楽しみながら生活する」ことを職員間で十分に話し合いながら、支援している。そのために、前回の目標達成計画で設定した利用者のアンケートを実施し、その希望・要望を着実に実践している。また、理念では「職員の心構え」に触れているが、職員の育成にも努力している。職員と管理者は定期的に面談し、個人目標やその実践状況・課題について話し合う機会を持ち、それに基づいて研修機会を付与したり、資格取得の支援機会を設定したりしている。さらに、コロナ禍の後の、「地域に根差した生活」のための交流の拡大の研究を始めるなど、意欲的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に掲げ、共有している。新入職員や異動職員への周知、新規入居者・家族へのお知らせをしている。	法人理念に基づく「かけはしの理念」を玄関や事務所に掲示している。「利用者様」と「自分自身」に対する心構えを、部門会議や担当者会議で確認しながら、「主体的で生き生きとした生活」ができるように支援している。年度の事業計画を作る際に一年の振り返りを行い理念の実践と共有に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある床屋の利用や、畑作業でのアドバイスを頂いたり、行事への参加を呼びかけたり、中学校の取組みへの協力を実施している。	従来、地域の方から畑作業で指導を受けたり、中学生の訪問を受けたり、事業所行事に参加を頂いていたが、現在は、コロナ禍の中、介護の日の地域の方々の招待、畑の指導、移動販売車との交流程度である。コロナ禍後の交流拡大のあり方を研究中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	11/11の介護の日にちなんで、地域の方を招待し、施設の見学や困りごと相談等開催した。今後も継続予定あり。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催。入居者の生活の様子や取組み状況について情報共有・意見交換し、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。	今年はコロナ禍の中でも、場所などに最新の注意を払い、市職員・民生委員・老人クラブ有識者・家族と職員とで、2ヶ月に1回開催されている。会議では、かけはし便りなどの報告資料を基に、率直な意見を頂戴している。「畑づくり」や「事業所から家族への便り」などについて意見を貰い、それをサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険事業者連絡会での交流や運営推進会議等での意見交換等あり。	運営推進会議に市職員の出席があるし、市主催の介護保険事業者連絡会に職員が出席するので、その際、運営状況や課題を詳しく報告している。また、介護保険制度や利用者の個別の問題等へは窓口と協議し連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束排除や法令順守について学び、入居者の状況を把握し、日中は玄関の施錠はしていない。</p>	<p>指針やマニュアルに基づいて、禁止行為の内容や対応方法について、部門会議などで確認している。関係施設全体の拘束適正化委員会で、様々な事例を検討し合っている。ホームで、委員会事例などについて話し合いを行いながら、安全を確保するように工夫している。危険につながる行為を行う利用者には、その原因や対策を検討し職員間で共有し、見守りながら、鍵をかけない工夫や身体拘束をしないで過ごす工夫をしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>県が主催の学習会に法人から代表者が参加し、伝達学習や部門会議での学習をし、虐待防止についての知識を高め、入居者の尊厳を守れるように努めている。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員学習会、介護職会議、部門会議等で制度についての学習をし、必要な方への援助をおこなっている。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書等を用い、丁寧に説明するよう心掛けている。入居者・家族からの不安や疑問についても理解・納得を得よう心掛けている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・相談窓口を設けている。玄関に投書箱を設置している。面会や面談時に要望等も聞くようにしている。苦情・要望等があった場合は、法人内に設置されている第三者委員会に報告し、討議している。</p>	<p>今年度は、コロナ禍の中で、「お便り」の充実などで家族からの意見要望の聴取に努めていたが、現在は少数者の短時間面会を再開している。また、利用者については、アンケートを試みて、テーブル上のお花飾りつけを行うなど、日頃から機会を設けて聴きとり、運営に活かすように努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部門会議やサービス担当者会議等で意見交換をおこなっている。職員面談を定期的に取り組み、意見や提案を反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	部門会議で学習や事例検討の作成をおこない、発表している。介護職会議にも参加し、他部門の取組みについても学習の共有をしている。毎週金曜日NO残業dayとして法人全体で取り組んでいる。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習会や部門会議等へ参加。GH連絡協議会等での研修や交換実習、外部の研修会へ参加している。	現在は、事業所や法人内の学習機会を積極的に活用している。また、年に2回職員面談を行って、職員の個人目標などについて管理者と面談の機会を設定している。その際には、目標達成だけでなく、資格取得希望やモチベーションの向上策などについて、職員と十分に話し合い、スキルアップに繋げている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県GH連絡協議会や市の介護保険事業者連絡会での研修や交流の機会をもっている。	例年は、県グループホーム連絡協議会の研修や交換実習、市主催の介護保険事業者連絡会議などに参加させて、管理者、職員ごとに、情報交換や人的なネットワークづくりを促し、その成果をサービスの向上に活かしている。コロナ禍の沈静を待つて再開したいと考えている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に担当者を設け、入居者の生活歴なども考慮し、不安の軽減に努め、安心できる関係づくりに努めている。職員間での情報共有にも努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を確認し、職員間での情報共有。入居後の面会や定期的な面談時にも確認している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や状況に応じ、他のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを役割としてとりくみ、他入居者とも協力してできるよう職員が関わり支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や面談、毎月のおたより等で生活の様子や行事参加の様子を伝えている。法人やホームでの行事へ参加を呼びかけている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親類の方の面会時には、自室でゆっくり過ごしていただき、理美容室など行きつけの所があれば、家族の協力を仰ぎ、関係性を継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割や趣味活動を通し、日常生活の中での関わりやサークル活動や行事などを通して入居者同士の交流が出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される際は、今後についても相談を受け付けている事を伝え、入院や他施設入所の際も情報提供し、生活が継続出来るよう協力している。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、思いや要望を汲み取るように努め、言葉で伝えることが困難でも、行動や生活背景などから把握するよう努めている。	「主体的で生き生きとした生活」ができるように支援するため、利用者の思いや意向の把握を大切にしている。24時間行動アセスメントシートや役割活動等のアセスメントを詳細に記録し、利用者を深く理解した上で、普段の関りの中で会話や行動から、利用者本位の希望や意向の把握に繋げている。また、利用者アンケートが実施され、それを踏まえて花が飾られるなど、意向の実現にも努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの生活歴の聞き取りや、自室に馴染みのものを置くことで安心して過ごせる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間行動アセスメントや役割活動等のアセスメントを定期的実施。定期受診状況や日々様子について申し送りや担当者会議、部門会議等で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月サービス担当者会議をおこない、1・3・6ヶ月評価、見直しを実施。	利用者の介護計画は、サービス担当者会議で、1か月・3か月・6か月の評価を基に、見直しが行われる。その際は忌憚のない意見交換が行われ、利用者が得意とする役割を担いながら、楽しみながら生活できるように、生活支援に重きをおいて利用者本位の暮らしを支える計画の作成に努めている。その記録作成なども詳細で、利用者の現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに日々の様子を記入し、申し送りやカードックスを使用し、職員全員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>行事を企画し、近隣施設の催しに参加したり、買物や理美容室へ行くなど、生活に張り合いと楽しみを持つ事ができるよう支援している。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう、ご家族の協力もお願いしている。病状報告書を作成し入居者の体調や状況を医師に報告している。</p>	<p>家族又は職員の付き添いで、利用者・家族が希望するかかりつけ医の受診を継続している。受診時は利用者の健康や生活状況が分かる報告書を医師に持参している。診断結果は報告し合い、そして記録し、医療機関、家族、事業所で情報を共有している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>隣接する老健看護師が24時間連絡体制をとっている。定期的に巡回し、報告・相談・指示を受けている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>本人の情報提供と、入院期間や病状についてご家族・医療機関と情報共有している。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に対しての指針を作成しており、入居時、家族に説明・同意書いただいている。</p>	<p>重度化等への対応については、入居時、指針を基に、事業所としてできることを詳しく説明している。病態に変化があった場合には、主治医・家族・事業所で早期に話し合い、方針を繰り返し確認し、情報共有しながら対応している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や部門の学習会で、AEDや心肺蘇生について学習している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回、日中・夜間想定での避難訓練や風水害を想定した訓練を実施。毎月1日をカセットコンロ炊飯の日としてとりくんでいる。	併設施設と協力し、年に2回、火災の昼間・夜間想定で避難訓練を実施している。今年は、風水害を想定した避難訓練も実施した。毎月、災害時の食事訓練を行っている。地域主催の災害訓練に職員が参加するし、災害時の地域福祉避難所に敷地内の他の施設がなっている。施設間で協力し、食糧・備品の備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴やライフスタイルを考慮し、接遇の学習をおこない、その方に合った声掛けや対応に努めている。	一人ひとりの生活歴やライフスタイルを踏まえながら、利用者にあった声掛けや言葉遣いとプライバシーの確保を、カンファレンスで話し合っている。内部で接遇の研修会を行っており、今年はユマニチュードについて学んでいる。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動などからも思いや希望を汲み取り、選択できる方には自己決定できるように支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣や希望に応じて、その人らしい生活の支援に努めている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段と外出時など用途に合わせた服装や、本人の希望を聞きながら支援している。		

自己外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜の下処理や調理・盛り付け・片付け等おこない、献立作成にも希望を取り入れたりしている。	三食ともホームでの手作りで、職員と利用者が協力して調理・盛り付け・片付けを行い、温かい家庭料理を楽しんでいる。メニューは、利用者の声を聴きながら職員が作成し、管理栄養士の指導を得ている。昼食は実に多彩である。自家菜園の野菜の活用や、行事食提供で季節感を出している。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好も考慮し、好まない物があれば、代替えの物を提供できるようにしている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導をおこない、仕上げ磨きが必要な方へは介助している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方には排泄アセスメントを実施し、声掛け・誘導を実施している。	必要な利用者には排泄アセスメントなどで一人ひとりの排泄パターンを確認し合っている。適時声掛けとさりげない誘導によって、トイレで排泄できるように支援している。また、パットやパンツの調整等で、できるだけおむつを減らす工夫を行っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センナ茶や乳製品、食物繊維の多い食材等使用。毎日ラジオ体操や軽体操など体を動かす時間を設けている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や希望など、個人のタイミングも考慮し声掛けを工夫したりしている。	体調など利用者の希望を踏まえて入浴を促し、少なくとも週2回は入浴できるように支援している。入浴を好まない利用者に対しては、声掛けを工夫している。身体状況を踏まえ、安全な入浴の支援を心掛けている。	

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>自宅で使用していた寝具を使うなど、環境づくりをしている。</p>			
46		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書や受診後の報告書で確認している。薬変更があった時はアセスメントし、必要時医療機関へ報告している。</p>			
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>できる事を役割としてとりくみ、季節を感じる食事や行事を提供したり、サークル活動への参加を促している。嗜好品については、主治医へ相談し頻度や適量を確認し提供している。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望を取り入れた外出行事や、個人の買い物など支援し、お盆や正月など家族と外出される方もいる。</p>	<p>従来は、希望の外出行事の実施、買い物、お盆や正月などの家族と外出など、様々な外出支援を行っていたが、コロナ禍の中では、敷地内散策、畑の見回りなどに限られていた。そうした状況下であるが、感染症対策をとり、ドライブを実施している。11月から、面会制限の緩和に併せて、家族との外出機会制限を緩和した。コロナ禍の推移を見ながら、外出支援のあり方を検討している。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される方は、家族と相談の上、預り金とは別に自分で財布を持ち使用している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、支援している。手紙のやり取りは機会が少ない。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理をおこない、共有スペースも家庭の雰囲気を感じられるような装飾や環境整備に努めている。	利用者と職員で毎日掃除が行われ清潔感がある。温度や湿度も管理され居心地良く過ごせるよう環境を整えている。利用者の作品や思い出の写真が、子供っぽくならないように掲示され、季節感を大切にした共用空間である。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やソファでくつろいでいただけるよう声掛けや誘導もおこなっている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や寝具を持って来て頂き、自宅に近い環境で過せるよう配慮している。	各居室は、利用者が従来から使っていた馴染みのものが持ち込まれ、入居前の生活が大切にされている。家具や掲示物が思い思いに配置され、居心地よいように配慮されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をつけ、トイレや浴室にも表示している。玄関前や廊下に手すりを設置し、歩行しやすくなっている。			